

科 目	週 時 数
現代文B	4 時間

目 標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	
育 っ たい 力	知識 技能	語句の意味、用法を的確に理解し、自身の語彙を豊かに表現に反映させることができる。また、教材の文体、修辞に触れ、他者に主張を正しく伝える表現を磨く。
	思考 判断 表現	構成、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する姿勢を養う。あわせて書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確にとらえる力を育む。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。
	主体性 協働性 多様性	読書に親しみ、さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、他者と意見を交換することで多様な視点に触れ、自身の意見を磨くことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「文学の未来」 ・「檸檬」 ・「環境問題と孤立した個人」 ・「クレールという女」 ・「社会の壊れる時」 ・「他者の声 実在の声」 ・『高校漢字必携』5級・4級 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文から代表的な思想や、筆者独特の考え方に触れ、自身が新たな視点を獲得するとともに、筆者の論に対する自身の論を確立し、他者と意見を交わすことで自身の成長につなげる。 ・文学的文章から、人間の内面にある憂いや鬱屈した思いが文学の中でどのように表現されているかを味わう。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「サッカーにおける『資本主義の精神』」 ・「言語と記号」 ・「鏡の中の現代社会」 ・「言葉を生きる」 ・「原始社会像の真実」 ・「抗争する人間」 ・『高校生の漢字』3級、2級 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文を読んで、筆者独特の経験、視点に触れることで自身の視野を広げ、これまでとは異なる視点で社会を見る眼を養う。

授業の形態	一斉授業 ペアワーク グループワーク
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)
副教材	高校漢字必携5級～2級(第一学習社)
評価の方法	定期試験の学力点と授業態度、提出物、小テスト等の平常点との総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書教材の学習の手引について自分の視点で論じられる
	60%	教科書の練習問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
古典B	2 時間

目 標	古文と漢文を読む能力を養うとともに、物の見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	
	知識技能	単語・文法などの知識の充実を目指し、古文・漢文を読む能力を身につける。
	思考判断表現	古典の学習を通じて、物の見方、感じ方、考え方を深める。
	主体性協働性多様性	言語文化に対する関心を深め、豊かな自己形成を図る。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	教科書所収文章の読解 ・『和泉式部日記』『夢よりもはかなき世の中を』 ・『三国志の世界』『赤壁之戦』『出師表』 ・『十六夜日記』『駿河路』	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。 ・文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色を捉えたりすることができる。
2 学期	教科書所収文章の読解 ・『堤中納言物語』『このついで』 ・『韓信伝』『背水陳』 ・『蕪村』『月夜の卯兵衛』 ・『唐宋八大家の文章』『与孟東野書』	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 ・様々な文章を読んで、物の見方、感じ方、考え方を広げ深めることができる。

授業の形態	一斉授業 グループワーク
教科書	『精選古典B』(東京書籍)
副教材	古典B教科書準拠ノート(東京書籍) これからの古典文法(尚文出版) 漢文学習必携(京都書房) 新訂国語総覧(京都書房) 新日本文学史(京都書房)
評価の方法	学力点(定期試験)と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による評価
備考	調べ学習ならびに音読を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	文法書に用いられた文法事項に付随する内容への理解, 文法書内容の論理的理解
	60%	文法事項の習得, 文法書内容の概観

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
国語探究②(設定)	3 時間

目 標	大学での研究活動に耐えうる, 基本的な言語技能を習得する。	
	知識 技能	社会全般に対する広い視野と, 自身の興味関心に基づいた専門的な知識, 考察をバランスよく持てるようにする。それらを探究するための情報検索能力を身につける。
	思考 判断 表現	論理的な思考力, 適切な引用能力, 時と場に応じた言語活用能力を身につける。
	主体性 協働性 多様性	個人で, または他者と相談し協力しながら学びを進め, 効果的なプレゼンテーションを実現できるようになる。また, 他のプレゼンテーションから良い点を学び, 自分の発表に有機的に取り入れられるようにする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文演習 ・志望理由書作成 ・面接体験 ・プレゼンテーション演習(授業内での発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の基本的な書き方を学ぶ。 ・好ましい志望理由書の書き方を学び, 自身の希望進路を明確にする。 ・面接のマナーを学ぶ。 ・効果的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文完成 ・志望理由書完成 ・面接演習 ・プレゼンテーション演習(学内外への発表) 	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた小論文の書き方を学ぶ。 ・優れた志望理由書の書き方を学ぶ。 ・好ましい面接態度を研究し, 実践する。 ・効果的なプレゼンテーションを実践する。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
主たる教材	「小論文チャレンジ要約」(第一学習社) 「現代文100字要約」(駿台文庫)
副教材	小論文模試(学研)
評価の方法	小論文, 志望理由書等の評価。プレゼンテーションの評価。
備考	特になし

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「小論文チャレンジ要約」の提出課題やプレゼン資料において, 効果的な工夫がされており, 進歩が見られる
	60%	「小論文チャレンジ要約」の課題等や志望理由書・プレゼン資料を決められた条件のもとに完成させる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
社会総合探究(設定)	4 時間

目 標	「地域社会で活躍できる人材の育成」を目指し、地理分野・歴史分野を通して世界と日本を繋げる横軸と、歴史分野を通して過去から未来へ繋げる縦軸を、身近な課題と結びつけて考え、調査し、主張する力を養う。	
	知識 技能	地理・歴史各分野ごとに定められた課題に沿って、各自の興味関心をもとに、これまで学んできた内容を踏まえ、調査研究対象を定めて発表することができる。
	思考 判断 表現	地理・歴史各分野ごとに定められたテーマに沿って、資料や文献を用いて客観的な判断を行うとともに、自分の立場と意見を明確にして主張することができる。日本と世界、過去から現在をつなげ、今後の課題を構築することができる。
	主体性 協働性 多様性	個人またはグループワークにより、課題の設定と学習プロセスを振り返ることができる。時代の変遷と、世界の多様性に気づき、自分の生きる国・地域、時代の立場を検証することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	【地理分野】 自然災害・防災 環境問題 エネルギー問題 【歴史分野】 歴史上の人物 帝国主義 第一次世界大戦と第二次世界大戦の情勢 宗教からみた現代社会	【地理分野】 ・自然災害を理解し、特に日本は世界の中で自然災害が多い国である。その国の中で、被害を最小限に留めるための防災についても考察する。 ・地球規模で進む環境問題に対して、自分の身の回りでも進められる対策等についても思考する。 【歴史分野】 ・19世紀以降を取り上げ、偉人や戦争、宗教をテーマに掲げ、日本が現代世界での立場を構築した歴史を横断的に考える。 ・各テーマごとに興味関心のある課題を設定し、立場を明確にしながらか主張するために調査をおこない、発表の形をつくる。
2 学 期	【地理分野】 観光業 人口問題 アジアと日本の繋がり 【歴史分野】 マイノリティの歴史 歴史を動かした商品 世界遺産からみた近現代史	【地理分野】 ・膨れ上がる世界人口の中で、様々な諸課題を抱えている。その一方で、日本は人口減少の社会へと突入し、高齢者への対応などを考察する。 ・アジアの一国である日本に暮らす我々は、現在のTPPIに代表される地域連携は不可欠なものである。どのような繋がりが豊かな未来へ進む一助になるのかを思考する。 【歴史分野】 ・最近、耳にする社会的マイノリティや、日常的に使用している商品、見聞したこととなる世界遺産について、身近なところから考察し、社会学、経済学、歴史人文学をふまえて考察する。

授業の形態	一斉授業、グループ学習、ペア学習
主たる教材	自主教材(プリント)
副教材	歴史分野「アカデミア世界史」(浜島書店)
評価の方法	定期試験(発表時の評価を含める)、平常点による総合評価
備考	ルーブリックを作成する

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	演習プリントの重要語句の関連性を系統立てて理解できる
	60%	演習プリントの重要語句を理解できる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
政治・経済	2 時間

目 標	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、公民としての資質・能力を育成する。	
育 っ た い 力	知識技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる基本的な概念や理論などについて理解するとともに、情報を適切に調べられる。
	思考判断表現	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会の課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠によりよい社会を構想する力や、実現可能性などについて議論することができる。
	主体性協働性多様性	現実社会の諸課題を主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される公民としての自覚を磨くことができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立や協調などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 ・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・国際社会の変遷、人権、国家主権、領土等に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、わが国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。
2 学期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済 第3編 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きとしくみ及び租税などの意義、金融の働きとしくみについて、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。 ・経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通じて理解を深める。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『政治・経済』(数研出版)
副教材	政治・経済(数研出版)、政治・経済資料集(清水書院)、倫理(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	『サポートノート政治・経済』 演習問題・発展問題の完全理解
	60%	『サポートノート政治・経済』 確認問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
倫政探究(設定)	2 時間

目 標	「地域社会で活躍できる人材の育成」を目指し、現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きるため、身近な課題と結びつけて考え、調査し、主張する力を養う。	
	知識技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる基本的な概念や理論などについて理解する。その中で、各自の興味関心をもとに、これまで学んできた内容を踏まえ、調査研究対象を定めて発表することができる。
	思考判断表現	倫理・政治経済、各分野ごとに定められたテーマに沿って、資料や文献を用いて客観的な判断を行うとともに、自分の立場と意見を明確にして主張することができる。現実社会の課題を理解するとともに、身につけた判断基準を根拠によりよい社会を構想する力や、実現可能性などについて議論することができる。
	主体性協働性多様性	個人またはグループワークにより、課題の設定と学習プロセスを振り返ることができる。現実社会の諸課題を主体的に理解しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、宗教観や政治、経済の実情を検証することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	【政治分野】主権者教育 【倫理分野】四大宗教の比較	【政治分野】(主権者教育) ・選挙権取得の年齢が18歳以上となったことで、在学中に選挙に関わる機会ができることを踏まえ、自らが主権者であることを意識し、政治や行政に対してどのように関わっていくのかについての知識及び理解を深める。 【倫理分野】 ・宗教に日々、触れている本校の教育方針を踏まえ、信教としているキリスト教の他にも、身の回りにある他の宗教への関心を持つ。 ・世界全体で布教の広まっている四大宗教をそれぞれについて、起源や発展の流れについて学び、宗教が人々に与えてきた役割やその意義を考える。 *全体を通して、グループ又はペアで調べ、考え、発表を行うことで、協調性や他人の意見を取り入れ、より高位へ飛躍させていく力などを養う。
2 学期	【経済分野】企業研究 【倫理分野】現代社会の諸問題	【経済分野】 ・あらゆる業種の企業に囲まれている現状を踏まえ、地元企業やグローバル企業、一部上場企業など、様々な企業に対してフォーカスし、企業形態や生産活動等に目を向ける。 ・企業の社会的責任に関する学習を通して、生産活動などの表面的な部分のみならず、社会に及ぼしている貢献などにも着目する。 【現代社会分野】 ・地球環境問題、少子高齢化問題、人権問題等の身の回りにあるあらゆる問題となっている事柄について、知識を深める。 ・諸問題について学ぶだけでなく、それを改善・変化させていくための方策を考える。 *全体を通して、グループ又はペアで調べ、考え、発表を行うことで、協調性や他人の意見を取り入れ、より高位へ飛躍させていく力などを養う。

授業の形態	個人学習, グループ学習
主たる教材	自作プリント
副教材	政治・経済(数研出版), 政治・経済資料集(清水書院), 倫理(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	政治経済・倫理の演習プリントの重要語句の関連性を系統立てて理解できる
	60%	政治経済・倫理の演習プリントの重要語句を理解できる

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学Ⅱ	3 時間

目 標	指数・対数関数, 微分と積分について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを積極的に活用する態度および応用力を養成する。	
	知識技能	数学的活動を通して, 指数・対数関数, 微分と積分における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の方法を身につけ, 的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して, 指数・対数関数, 微分と積分における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考察し, 表現するとともに, 過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見いだし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○指数関数・対数関数	○指数を実数の範囲まで拡張できることを理解し, 活用できる。 ○指数関数のグラフを理解し, その方程式・不等式が解ける。 ○対数の存在を理解し, その基本性質が理解できる。 ○対数関数のグラフを理解し, その方程式・不等式が解ける。
2 学期	○微分と積分	○微分係数, 導関数の定義・意味を理解し, 計算・活用できる。 ○導関数を用いて, 関数の増減および極大・極小を調べ, グラフが描ける。 ○不定積分・定積分について理解できる。 ○定積分によって平面図形の面積が計算できる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『新編数学Ⅱ』(東書 数Ⅲ 302)
副教材	ニューアシスト新編数学Ⅱ+B(東書), 改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 approach(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり, 応用力を身につけさせる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の間, 副教材「ニューアシスト」のA問題を完全理解
	60%	教科書の定義・定理・例・例題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
育 っ て たい 力	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 ・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 ・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 ・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 ・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ2017(大修館)
評価の方法	実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
コミュニケーション英語Ⅲ	4 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を実際の場面で運用できるようにする。 全過程を通じて、大学が求める英語運用能力を伸ばす。	
	知識技能	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。 日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。 専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。
	思考判断表現	書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。 日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。 自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。 専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。 話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	English Communication III ・L1 The \$100,000 Salt and Pepper Shaker ・L2 Blood Is Blood ・L3 Australia and its Creatures ・L4 Bilingual Effects in the Brain ・L5 Sesame Street ・L6 Communication without Words ・L7 The Honeybee Dance	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 <人生・生き方> <人権> <環境・生物> <脳科学> <教育> <コミュニケーション> <生物>
2 学期	・L8 Animal Math ・L9 The Story of My Life ・L10 Extinction of Languages ・L11 Learning a First Culture ・L12 Light Pollution ・既習事項の確認と発展的演習	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 <人生・生き方> <歴史・芸術> <言語> <社会・文化> <環境・科学> 演習を通し、総合的な力を磨く。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Revised Landmark English Communication III』(啓林館)
副教材	Revised Landmark English Communication III 予習ノート(啓林館) Vision Quest総合英語(啓林館) TOEIC Bridge 公式ワークブック(国際ビジネスコミュニケーション協会)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	予習ノートの全ページの問題と答え、教科書の課末問題や小テスト問題を全て理解している
	60%	予習ノートの全ページの問題と答えを理解している

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
英語表現Ⅱ	3 時間

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
	知識技能	簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 日常生活の話題や簡単な説明・指示を理解することができる。 短い内容や会話を聞いて、話者の意図や内容の状況を理解できる。
	思考判断表現	1つの段落内の要点や内容のつながりを理解できる。 興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想を整理し、文章構成を意識して書くことができる。
	主体性協働性多様性	日常生活で簡単な用を足したり、興味のあることについて考えを述べるができる。 自分のスピーチに対する質問に英語で何とか答えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Vision Quest English Expression II Part 3 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート	以下についての基本ルールを理解し、活用できるようになる。 ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・ディベート
2 学期	Vision Quest English Expression II ・Part 1 ～ Part 3	演習を通し、総合的な力を磨く。 ・既習事項の確認と発展的演習を行う。 ・様々なテーマについて、自身の考えをまとめたり、論理的に表現できるようになる。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Vision Quest English Expression II』(啓林館)
副教材	Vision Quest English Expression II WORKBOOK(啓林館) Forest 7thEdition(桐原書店) NextStage 英文法・語法問題 4th Edition(桐原書店) OVERALL 英語総合問題集3(Z会)
評価の方法	定期試験・スピーキングテスト・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解
	60%	教科書のExercises問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
育 っ た い 力	知識 技能	歴史的, 社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り, いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが, 同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え, これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで, 全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史性, 普遍性, 倫理性 ・創立の経緯 ・3L精神 ・建学の精神 ・新約聖書概論 ・日本の宗教とキリスト教 ・主の祈り ① ・主の祈り ② 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ, 必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び, 学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と, 学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と, 新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき, 神との関係性について知る。 ・本来あるべき, 隣人との関係性について知る。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・新約聖書と旧約聖書の関連 ・旧約聖書概論 ・十戒 ① ・十戒 ② ・教会暦 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の違い, ユダヤ教徒の関連を知る。 ・古代イスラエル史と共に, その豊かな知恵を知る。 ・本来あるべき神との関係性について知る。 ・本来あるべき隣人との関係性を知る。 ・一年を通じてキリストの生涯を意識しつつ生きる。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験, 提出物による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ た い 力	知識技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考判断表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性協働性多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	「課題研究」「進路研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。 オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。
2 学 期	「課題研究」「進路研究」	「SDGs」の達成状況や高校2年時までの「3L希望学」の学習成果、世界情勢などを踏まえて、今後継続して向き合う社会課題を明確にし、その内容を状況を会得した探究のプロセスを用いて明らかにしていく。さらに、その内容を進学に際して明確に表現できる形にまとめる。加えて、課題意識を級友と協働して高めていく。 オープンキャンパスなどの研究者や学生の方との交流の機会を通して、自らの興味関心、向き合いたい社会課題に照らしてふさわしい学問分野を見定め、その学問分野を修めるのにふさわしい進学先を決定する。また、その思いや経緯を志望理由書に反映させ、2年時に作成した内容を磨く。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	なし
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科目	週時数
プレカレッジ	PC① 2 PC② 1 計 3 時間

目 標	東北学院大学で開講されている「地域の課題」の学びに繋がる「思考プロセス」を具体的なワークを通して深める。加えて、地域の課題と向き合うことを通して社会の未来を描く力を育み、自らが社会課題の課題の解決のために何が出来るかについて考え、自らの進路選択に繋げる。 現代の情報基盤社会についての基礎的な知識の習得を通して、情報化に適応し、積極的に参画するための能力を育成する。また、実際に情報を活用するうえで必要な情報収集、判断の能力を養う。	
	知識技能	自分自身の興味関心と社会の課題の結びつきを明確に理解することができる。 社会への関心と情報感度を向上させることができる。 情報および情報基盤社会についての基礎的な知識と、必須となる情報機器の使用方法を理解している。また、現在の情報環境を前提とした情報モラルを身につけている。
	思考判断表現	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報機器やネットワーク環境の特性を踏まえたうえで論理的に情報を取捨選択し、情報モラルの観点からも適切に情報を受発信することができる。
育てたい力	主体性 協働性 多様性	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。 情報基盤社会の成員としての自覚をもち、他者を尊重しながらそれに積極的に参画する態度を身につけている。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜだろう」を見つける 「おかしくない？」を見つける 「どんな未来を描くか」を明確にして発信する 情報と情報基盤社会について <ul style="list-style-type: none"> 情報価値の変遷 情報システムについて 知的財産とそれを守るしくみについて 情報機器の構造 <ul style="list-style-type: none"> コンピュータの情報処理 	<ul style="list-style-type: none"> 現状把握と原因に対する疑問を持つ姿勢を誘発する 現状分析とその原因究明の姿勢と手法を具体的な記事の深掘りを通して体験的に学ぶ 社会との関係性を理解するための思考を深める 社会の将来像を描き、自分自身が捉えた社会の問題を課題化する 先達との出会いを通して自らが取り組むことが可能である意識できる課題を明確にする 自分自身を課題解決の当事者と認識し自らが関与できる範囲を絞り込む 自らが主体的に取り組むことの意味と意欲を他者に正確に伝えるための方法を実践を通して理解する 自分なりに不条理と感ずることを見出し、社会の問題を自分に引き寄せて論理的に考える 自分自身の社会への参画可能性について考える
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 未来像(解決したい課題)と自らの進路の結びつきを明確にする 自らの希望進路を学問分野とを結びつける 東北学院大学の希望学部・学科のアドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーと希望進路の結びつきを明確にする 東北学院大学の希望進路の妥当性について志望理由書に筋道を立てて表現する プレカレッジでの探究型の学びの過程を文書に分かりやすく表現する 大学での学びを明確にイメージし、自らの言葉で発信する 情報通信ネットワークについての基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの発展の経緯 情報通信ネットワークの構造 情報セキュリティについて <ul style="list-style-type: none"> セキュリティ対策と個人情報について 	<ul style="list-style-type: none"> 社会との関係性を理解するための思考を磨く 社会の将来像を描き、自分自身が捉えた社会の問題を課題化し表現する 自分自身を課題解決の当事者と認識し自らが関与できる範囲を絞り込み明確にする 自らが主体的に取り組むことの意味と意欲を他者に正確に伝える方法を理解し実践する 自分なりに不条理と感ずることを見出し、社会の問題を自分に引き寄せて論理的に考え表現する 自分自身の社会への参画可能性について考え明確にする 社会課題と希望進路の結びつきを明確にする 希望進路と学びたい学問分野の結びつきを明確にする 東北学院大学の希望学部・学科と希望進路の結びつきの整合性を確認する 東北学院大学の希望学部・学科の志望理由を文書で説得的に表現する プレカレッジでの探究型の学びの内容を文書で明確に表現する 現在の情報通信環境がどのように形成されたのかを理解する。 情報通信ネットワークを適切に活用する能力を身につける。 情報基盤社会における危機管理能力と情報モラルを習得する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 PC一人1台環境による講義形式の授業
主たる教材	自主教材 コンピュータ概論 情報システム入門
副教材	新聞 企業分析レポート 動画(番組)
評価の方法	レポート ミニツペーパー ポートフォリオ 定期試験と実習課題による
備考	ボランティアに関する情報を発信し体験のサポートをする

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	ミニツペーパーを充てる 演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	レポート ミニツペーパー ポートフォリオ 期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	新聞に目を通し動画を視聴するなどして地域の状況を知ろうとする 必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	社会ならびに地域の課題と自らの進路をしっかりと結びつける 聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む